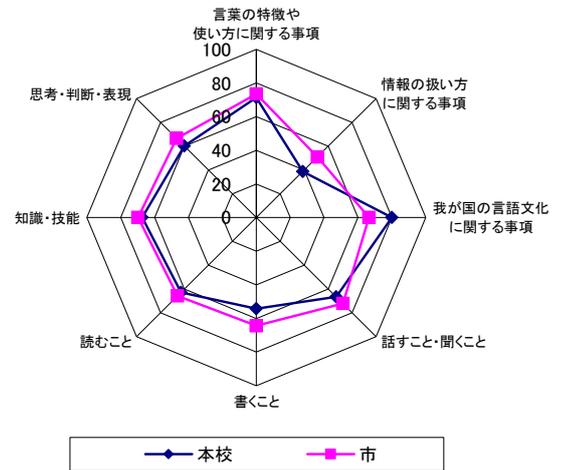


# 宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.4	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	38.8	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	80.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	66.7	72.3	73.7
	書くこと	54.2	64.3	66.6
	読むこと	62.9	65.8	64.9
観点別	知識・技能	67.3	69.8	70.8
	思考・判断・表現	60.2	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

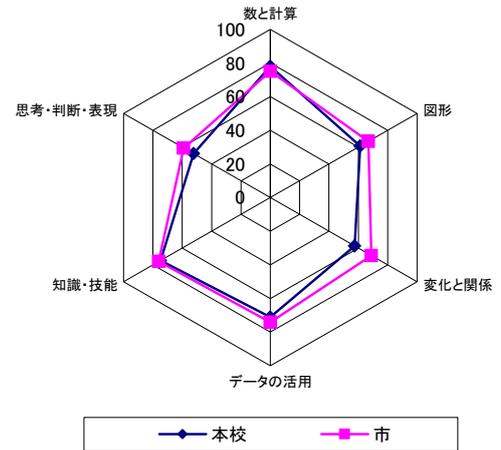
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の平均を下回った。 ○漢字の読み書きは、市の平均と同程度の結果であり、読むことができていない領域のものがある。新出漢字について単元の初めに必練習して身について来ている字も多いと考えられる。●漢字は、書くことが苦手で習熟の度合いに個人差が大きいと思われる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の意味や熟語の意味を理解しながら漢字の練習をすることで漢字を書くこと熟語の意味を理解しながら繰り返し練習することで定着を図っていきたい。 ・文脈から正しい文と文とのつながりと文の意味を正しく理解できるように音朗読よって実感できるようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均を下回った。 ●読み取った情報を基に目的に応じた文章に要約することができない誤答が多く見られたことから、条件を合わせて書くことに課題が見られる。	・文字数や読み取った情報を必ず入れるといった条件を満たした文章を書き慣れるために、指定された段落構成や内容で作文を書く。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均を上回った。 ○和語・漢語・外来語については、漢字の音読み・訓読みを理解できていることが分かる。	・和語・漢語・外来語については、漢字の学習の際に音読み・訓読みの区別ができるような指導を更に継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均を下回った。 ●指定された長さで文を書くことに課題が見られる。また、無回答率も高く、話すこと・聞くことに対するの苦手意識は高いと思われる。	・話したり、聞いたりする際には、何がポイントであるか自分で考える習慣が身に付けられるように文章の構成図を書いたり、キーワードから要点をまとめたりする活動を取り入れ、指導する。
書くこと	平均正答率は市の平均を下回った。 ●無回答率は高く、書くことに対するの苦手意識も高いと思われ、指定された長さで文を書くことに課題が見られる。	・説明文の読み取りの際には、段落相互の関係や文章構成をきちんと理解するため、段落ごとの要点をまとめる活動を取り入れる。また、書くことの苦手意識を少しでもなくすように、作文プリントの実施を継続していく。
読むこと	平均正答率は市の平均と同等であった。 ○物語文を読み取ることについては、教科書教材の物語文を丁寧に読み取ったり、普段の読書活動で本をたくさん読んだりしていることによって成果が現れている。 ●説明文を読み取ることについては、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題が見られた。	・説明文の読み取りの際には、指示語や重要な言葉に気を付けながら読むことができるように継続して指導する。 ・朗読の機会を多く設けて、読むことに慣れるようにする。

# 宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.0	75.1	75.8
	図形	61.3	66.8	68.3
	変化と関係	57.5	68.8	65.0
	データの活用	71.1	74.1	63.6
観点別	知識・技能	74.8	76.1	75.8
	思考・判断・表現	52.2	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

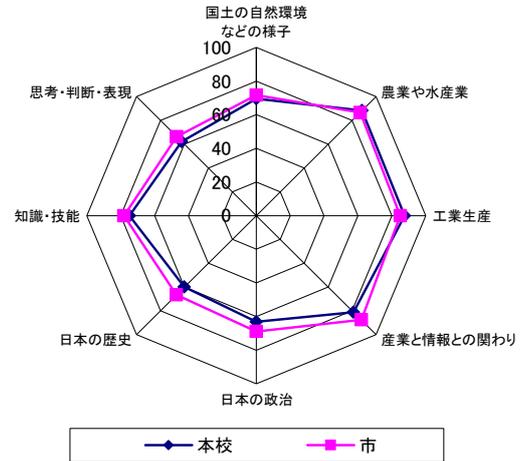
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を上回った。</p> <p>○小数のかけ算やわり算の計算については、正答率が高かった。</p> <p>●図を見て、小数倍の文章問題を解くために除法の立式を選ぶ問題では、わる数とわられる数を逆にした式を選んでいる回答が多かった。</p>	<p>・計算技能の習熟のため、計画的・継続的に、数の仕組みや各計算方法の意味を繰り返し指導し、多くの問題に触れることで習熟を図る。</p> <p>・問題の場面を正しく把握したり、意味を考えながら立式したりできるようにするために、自分たちに身近な場面で考えさせる指導をしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○三角形の内角の和が<math>180^\circ</math>であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題では、正答率が高かった。</p> <p>●正六角形の作図方法から、円の中心のまわりにできる角の大きさを求める問題では、正答率が低かった。</p>	<p>・作業的・体験的な活動を通して理解できるようにするとともに、基本的な図形の定義や性質についての理解を深め、面積や内角の和を正しく求められるように、繰り返し問題に取り組ませる。</p> <p>・言葉や数を使って、自分の考えを説明できるようにするために、ペアやグループ学習において、自分の言葉で説明する場を設ける。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>●表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察する問題では、正答率が低かった。</p>	<p>・問題文を読んで立式する際に、加減乗除のどれを用いて解いたらよいかイメージできていないことが考えられる。問題文をしっかりと読み、数値を簡単なものに置きかえるなどの工夫をして、求めることは何かを理解しながら立式できるよう引き続き指導していく。</p> <p>・5年の「割合」の単元の復習を行うことで百分率を適切に把握できるよう指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める問題では、正答率が高かった。</p> <p>●走る距離と歩幅の平均から、ある距離を走るときにおよそ何歩かかるかを求める問題では、正答率が低かった。</p>	<p>・図や絵を活用しながら、記述式の学習問題に取り組む機会を多く設ける。</p>

# 宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.5	71.6	69.6
	農業や水産業	88.3	86.7	83.7
	工業生産	87.5	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	81.3	87.7	77.4
	日本の政治	63.1	68.9	71.7
観点別	日本の歴史	60.0	66.7	66.3
	知識・技能	74.9	78.0	76.7
	思考・判断・表現	62.2	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

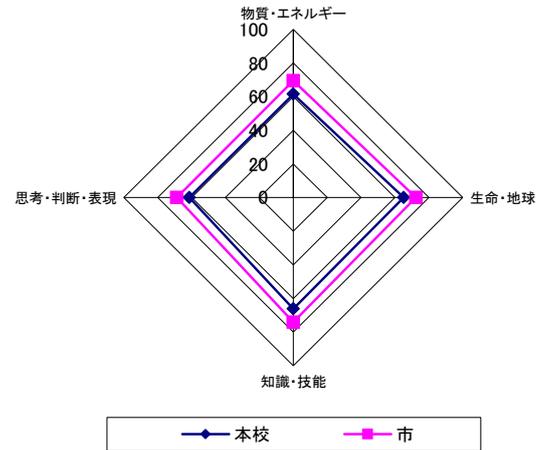
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○問題に合った回答を4つ選択肢から選ぶ問題は正答率が高かった。 ●日本の地形の名称を記述する問題は、無回答率が高かった。	・授業の中で、地図を使って調べる活動を多く取り入れるようにしたり、ニュースや児童の体験と結び付けながら考えさせたりすることで、地名を覚えやすくする。 ・日頃から、テレビやインターネットのニュースなどで話題になっていることと学習の内容を結び付けて考えさせることで、世界や日本の情勢や環境に興味をもたせるように工夫していく。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を上回った。 ○米の生産の工程や生産地の理解を基に考える問題はよくできていた。	・食育と結び付けながら、日本の農業の現状や今後の課題などを、自分の身近な問題として考えられるようにしていく。 ・児童が見たり聞いたりしたことのない農業や水産業の様子を、資料集や映像資料を利用することで理解できるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均を上回った。 ○工業製品の分類を選ぶ問題は、正答率が100%で市の正答率よりかなり高かった。 ●資料を基に日本の工業の特色を記述する問題では、無回答率が高く、課題が見られた。	・教科書や資料集の表やグラフなどから、正しくデータを読み取ったり、全体の傾向をつかんだりできるように、表やグラフを活用した学習を多く取り入れる。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を下回った。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、6つの選択肢から、文に当てはまる文章の組み合わせを正しく選べていなかった。	・SNSやパスワード、情報リテラシーなど情報に関係する言葉の理解を正しくさせるようにする。 ・社会科だけでなく、学活や道徳などでも教科横断的に、繰り返し情報リテラシーの指導をしていく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○国民の義務について理解しているか問う問題では正答率が90%と市の平均正答率より高かった。 ●内閣の働きについての図を基に答える問題では、無回答や間違った語句を記述している傾向があった。	・日本の政治についての学習では、三権分立の仕組みを自分で図にまとめるなどして、正しく理解させるようにさせる。また、なぜそのような仕組みになっているのかも考えさせるようにする。 ・学習したことを、自分の言葉でまとめたり、友達と意見を交換したりする機会を多く作る。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○源平の戦いや鉄砲伝来についての問題は、市の正答率より高く、よく理解されていた。 ●カルタの読み札と絵札を使った問題では、問題の趣旨に合った答え方ができていなかった。	・歴史上の出来事の関連性を意識した授業を行うことで、知識としての定着を図る。 ・学習したことを、自分の言葉でまとめたり、友達に説明したりできるようにしていく。

# 宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.5	69.5	65.2
	生命・地球	65.2	72.3	70.1
観点別	知識・技能	66.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	61.4	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○ふりこの周期はふりこの長さに依存することについてよく理解していた。</p> <p>●ふりこが10往復する時間から周期を求めることへの理解が不十分であった。</p> <p>●物のとけ方では、食塩とミョウバンの水へのとけ方の違いについて、グラフを読み取ることに課題が見られた。</p>	<p>・実験を行う際に、「実験で気を付ける条件は何か」「実験を行うことで何が分かるのか」など、児童が実験の目的や結果を明確に意識できるようにする。</p> <p>・実験結果をまとめる際に、グラフを児童に作成させ、数値をグラフ化することで、縦軸や横軸の意味を意識させる機会を多くとる。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均を下回った。</p> <p>○食物連鎖を基に農家がテントウムシを畑に放す理由を正しく推測することができた。</p> <p>●流れる水の働きである侵食について理解が不十分であった。</p> <p>●消化された養分は主に小腸で吸収されることについて理解が不十分であった。</p>	<p>・身近な体験やニュースなどと学習内容を関連付けながら、児童が興味をもてるような授業を展開する。</p> <p>・実験・観察で得られた結果に対して、何故その結果になったのか、根拠や理由を考察する時間を確保する。</p>

## 宇都宮市立国本中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎・基本の確実な定着のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝のステップアッププリントの実施</li> <li>単元の終末において反復練習時間の確保</li> <li>児童の実態に合わせた指導体制(習熟度別学習 少人数指導 教科担任制など)</li> </ul>	算数の計算の問題や国語の漢字の読み取り、言葉に関する問題は、正答率が高い傾向にあった。漢字を書く問題は、市の正答率より低く課題が見られた。
根拠を基に自分の考えを表現できる児童の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見を述べるときには、必ず根拠を明らかにして話すようにする。(話型の活用)</li> <li>授業の終末での振り返りの時間を確保し、自分の言葉で書けるようにする。</li> </ul>	中・上学年において「自分の考えを理由を挙げながら話すことができる」では、市の肯定割合よりも高いか、同程度であった。 どの教科においても、記述式の問題は正答率が低いですが、昨年度に比べると無回答率が減っている。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○国・県の調査の際には、漢字や計算などの基本的な問題が定着していなかったが、市の調査では、計算や漢字の読みに関しては定着している様子が見られたものの、漢字の書きには課題が見られた。基礎・基本を確実に定着させるために、反復練習の時間をしっかり確保していきたい。

○どの教科においても、記述式や短答式の解答方法による問題の正答率が低かった。データ(図や表)を読み取ることはできても、それを基に分かったことなどを問題に即した文章で表現することに課題が見られた。これまでの調査に比べて、無回答率は減ったものの、まだ、自分の考えを適切に文章に表現することができていない。データを読み取ったり、それを基に自分の考えを書いたりする活動を授業に積極的に取り入れるようにする。